

積貞棟 4 階

(呼吸器外科、呼吸器内科、呼吸管理睡眠制御科、共通)

1. 看護単位の概要

病 床 数 38 床

呼吸器外科 24 床 呼吸管理睡眠制御科 4 床 呼吸器内科 7 床 共通 3 床

2. 病棟の特徴

1) 呼吸器外科

肺の悪性腫瘍に対する外科的手術治療やその前後の化学療法、放射線療法、胸腺腫や重症筋無力症に対する胸腔鏡手術などを行っている。2018 年よりロボット支援下手術が肺癌と前縦隔腫瘍に対して保険適応となり、ダビンチ Xi・hinotori を使用しての手術に積極的に取り組んでいる。また、内科的治療を行っても改善の見込めない呼吸不全に対して、生体肺移植、脳死肺移植が実施されており、全身麻酔手術件数 500 例以上の手術が施行され、そのうち肺移植手術が 30 例行われている。2010 年 7 月の臓器移植法改正後より、肺移植件数は年々増加している。

患者は小児から高齢者まで幅広く重症度も高いため、正確な知識と判断、技術を持った看護の提供を目指している。このような高度医療が行なわれている一方では緩和ケアへの移行過程における心身の苦痛の緩和や退院を見据えてのリハビリテーションを含めた日常生活援助も重要であり、このような患者に個別性のある質の高い看護を提供できるように多くの多職種と連携し患者・家族の思いに寄り添い、安全で安心な看護ケアの提供に努めている。

2) 呼吸管理睡眠制御科

睡眠中に無呼吸・低呼吸が繰り返し起こる睡眠時無呼吸症候群 (SAS : Sleep Apnea Syndrome) の患者に、脳波・眼球運動頤筋表面筋電図、心電図等を装着し睡眠中の生体現象を終夜記録する検査 (PSG : Polysomnography) のための入院と、持続的陽圧呼吸装置 (CPAP : Continuous Positive Airway Pressure) の導入に伴う検査の入院が主であり、ほとんどが 1~2 泊入院で行われる。短期入院ではあるが、虚血性心疾患、脳血管疾患、てんかんなどの神経疾患などの基礎疾患のある患者も多く、対象患者は小児から高齢者までと幅広いため、安全に検査が終了できるように医師や検査技師と協力しながら看護支援を行っている。

3) 呼吸器内科

肺腫瘍、間質性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、喘息などの呼吸器疾患の治療が行われている。病状の進行や感染の併発により呼吸困難感や疼痛が増強し入退院を繰り返す患者が多い。患者の状態や日常生活動作を観察し、持続する心身の苦痛症状の緩和に努めている。